

2019年度

カリキュラム編成書

音響制作科

コンサートスタッフコース(2年生)

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

作成日： 2019年4月1日

作成者： 八巻 吉市

学科名	音響制作科
コース名	コンサートスタッフコース
所属分野	クリエイティブ分野

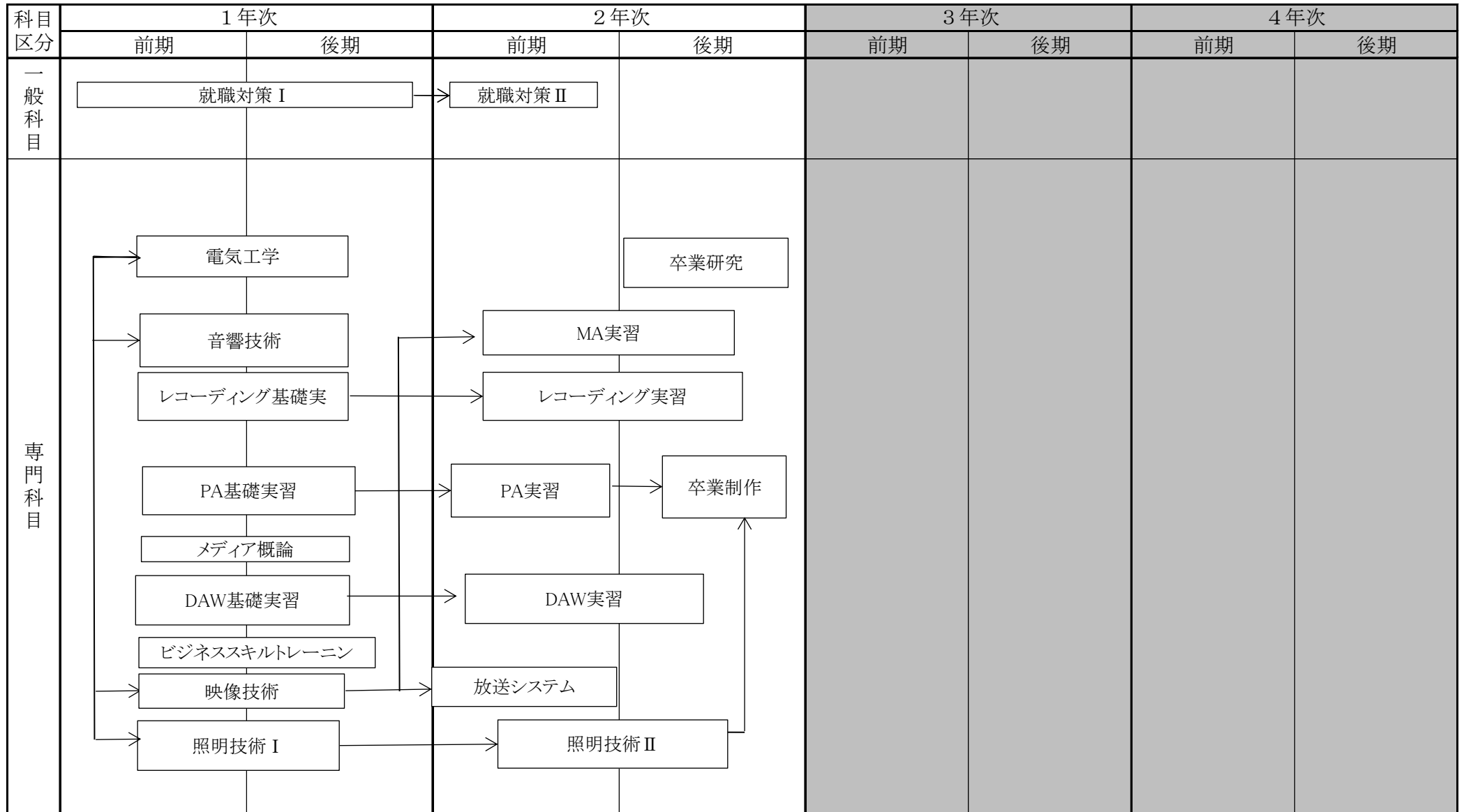
(各行は適宜増減のこと)

人材ニーズ	コンサートスタッフとして基本から応用力のある技術と幅広い知識を持った人材が求められる。
	また、音楽や歌唱をレコーディングするエンジニアから放送、映像、映画、DVDなど、あらゆる
	メディアに対応できるレコーディングエンジニアが求められる。
育成人材像	舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、
	舞台音響の総合的な専門知識を持ったオペレータや管理者を育成する。また、音楽や歌唱を
	レコーディングするエンジニアに限らず、放送、映像、映画、DVDなど、あらゆるメディアに
	対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。
主な教育内容 と目標	【教育内容】
	・音響、映像、照明の内容を基本にメディアの特性、創作手法を学び、それに加えてコンサート
	スタッフとして、舞台演出、舞台美術、舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学ぶ。また、
	レコーディングの基本から応用まで学ぶ。
	・実習(学内・校外)を中心にカリキュラム編成を行い、「創る」楽しさを学ぶ。
	・インターンシップを取り入れ、「現場感覚」を養う。
	【目標】
舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、	
舞台音響の専門知識を持ったオペレータや管理者として業務に携わることができる。	
	対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。
目標資格	舞台機構調整技能検定3級・2級
	サウンドレコーディング技術認定試験
	ProTools技術認定試験
目指す職種	コンサートスタッフ(音響・照明・美術)
	TV音声スタッフ
	MAミキサー
業界や外部 専門家との 連携体制	【現状】 定禅寺ストリートジャズフェスティバル音響アシスタント参加(校外実習)
	ジャズブロードワード イン センダイ 音響担当(校外実習)
	インターンシップ(東北映像製作社協会主催)
特長	業界との連携した人材教育
その他	特記事項なし

科目関連図

学科名 **音響制作科**

作成日：2019年4月1日



シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース			
科 目 名	就職対策Ⅱ	科 目 分 類	独自 / (共通)	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態 (講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数 2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験		
目的 / 概要	<p>【目的】就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動【エントリーシート作成・履歴書記入・作文・面接試験】支援を目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 ・ 作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 ・ 入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るよう行動できる。 ・ 面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。 			
目標資格	特になし			
前提知識	特になし			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	8	エントリーシート、履歴書記入演習		
	10	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習		
	10	作文、論文演習		
	10	個別面談		
計	38			
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)			
履修上の意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般常識実力試験 ・ 授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・ 演習レポート <p>【一般常識実力試験80%・課題小テスト10%・平常点10%】</p>			

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース				
科 目 名	映像システムⅡ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして放送技術全般の教育を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】 ・デジタル時代の放送技術の学習を通して、デジタル伝送、符号化技術、変調方式を学ぶ。</p> <p>【概要】 ・FPU伝送、通信衛星(CS)伝送、光ファイバーネットワークを用いた伝送、公衆回線の放送利用、様々な映像伝送 設備(緊急報道用機材)について学ぶ。 ・デジタル放送システム、デジタル放送方式、データ放送の概要、ネット配信、ワンセグの概要について学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中継 システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)を結びつけて説明ができる。 ・地上デジタル放送とBSデジタル放送の違いを説明できる。 ・高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)をそれぞれ説明できる。 ・伝送路の違いによる変調方式について、説明できる。 ・デジタル伝送方式の種類を説明できる ・データ放送サービスと仕組みを説明できる。 ・ネット配信とワンセグについて、説明できる。 				
目標資格	特になし				
前提知識	放送システムⅠ、通信工学の知識があれば望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	ニュース番組、スポーツ中継、報道中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)			
	2	地上デジタル放送とBSデジタル放送の違い			
	14	高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)			
	14	伝送路の違いによる変調方式			
	2	データ放送サービスと仕組み			
計	38				
使用教材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する <p>【定期考査80%・課題評価10%・授業態度10%】</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース				
科 目 名	照明技術Ⅱ	科 目 分 類	①独自 / 共通		
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / ②実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	原 田 建	実 務 経 験	照明技術会社、番組制作会社に勤務し、テレビ照明、イベント・舞台照明に従事、その実務を生かしてステージ照明技術の実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】 照明プラン図を理解し、器具つり込み、卓の操作、シュート(配光)の舞台実習を通し、照明効果を学び、イベント照明、音楽照明、芝居の照明などのプラン図を作成し運用することを修得する。</p> <p>【概要】 ①舞台機構と照明機構と舞台用語の理解 ②各照明器具の取り扱い方の理解 ③イベント照明 ④音楽照明 ⑤芝居(心理描写を表現する)照明</p>				
到達目標	<p>①舞台機構、照明機構、舞台用語の修得 ②舞台演目の違いによる照明家の考え方を学び、器具の選定、仕込み作業などを実習を通して修得 ③光と影の効果を理解した上で、色光の効果を修得 ④制作演出との打ち合わせを行い、照明プラン図の作成から実際の運用までの一貫したライティングを行うことを修得</p>				
目標資格	公益社団法人日本照明家協会 照明技術者2級				
前提知識	1年次に基本的知識を理解していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	舞台機構と照明機構			
	6	器具の種類と運用方法			
	6	光の方向・角度別の照明効果			
	4	色光の効果と作り方			
	4	プラン図を理解する			
	10	仕込み作業(器具の吊り込み、設置)			
	4	卓の操作とシュート(配光)			
	8	イベント照明の仕込み図作成と運用			
	8	音楽照明の仕込み図作成と運用			
8	芝居(心理描写を表現する)照明の仕込み図作成と運用				
14	総合演出(イベント・音楽・芝居)に対応した照明の仕込み図作成と運用				
計	76				
使用教材	<p>担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)</p>				
履 修 上 の 意 注	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に言い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	<p>・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・課題レポート20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース				
科 目 名	レコーディング実習	科 目 分 類	①独自 / ②共通		
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / ①実習 / ②演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	川村 武史	実 務 経 験	音響技術会社に勤務後、独立、サウンドエンジニアとしてPA、スタジオ業務に従事、その経験を生かしてレコーディング技術の実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マイクアレンジによる音色の違い、各種音源収録法マルチトラックレコーディングについて学習する。 2. ラジオ番組制作実習を通して、演出スタッフ、進行(アナウンサー・レポーター)スタッフ、技術スタッフのそれぞれの役割と関係を学修する。また、番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。 3. テレビ番組における收音法と音処理について学習する。 <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、音色加工と効果付加及びコンピュータアシテッドミキシングを修得する。 2. ラジオ番組の企画、商品たるべきラジオのエンターテインメント性、“音楽”と密接な関係であるラジオディスクジョッキーとは？、タイムキープ、表現力の習得を理解し、レコーディングエンジニアとして、番組制作を行う。 3. 各種番組ごとの收音方法や処理法、番組のテーマや演出、映像にマッチした曲の選曲、効果音の制作、編集する。 				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、ステレオレコーダ及びMTRへの録音ができる。 2. 番組のテーマを音響表現ができる。 3. 制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること、完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと。 				
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験				
前提知識	1年次音響システム(録音概論、音響機器学、音響システム、音響学)				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	マイクアレンジ、マルチトラックレコーディング、トラックダウン、コンピュータアシテッドミキシング実習 【ラジオ番組制作実習】番組制作を通じて下記項目を理解する。			
	19	①ラジオ番組の企画 ②商品たるべきラジオのエンターテインメント性 ③“音楽”と密接な関係であるラジオ:ディスクジョッキーとは？ ④タイムキープ ⑤表現力の習得			
	76	【各種番組の收音と処理(選曲、編集、効果音)実習】 (トーク番組・ニュース番組・音楽番組)			
計	114				
使用教材	各種音源 解説プリント・演習プリント				
履修上の注意	高度な録音テクニックを修得するので前提知識を完璧にしておくこと。				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【提出課題80%・平常点20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース			
科 目 名	PA実習	科 目 分 類	○独自 / 共通	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態
コマ数 / 週	6	総授業コマ数	114	単 位 数
担 当 教 員	梅内久仁生	実 務 経 験	音楽財団法人に勤務し、音響・録音業務に従事、その実務を生かしPAエンジニアとして必要な技術を習得するための実践的な指導を行う。	
目的 / 概要	<p>【目的】</p> <p>① 実際の音響システム・セットアップ・音響機器の習得をし、PAオペレーション等の習得。</p> <p>② イベントスタッフ(舞台演出・音響・照明)の関わりを理解し、必要な知識・技術を実習と通じて学修する。</p> <p>【概要】</p> <p>① 音響システムプランを作成し、プランに基づき機材準備、セット、チェック、機器の操作を習得及び舞台芸術に対し音響技術学習する。また、舞台機構調整技能検定実技対策実習を行う。</p> <p>② 各内容に応じて音響プランニングをし機材準備から音出しまでする。各スタッフとの連携をしイベントを制作する。</p>			
到達目標	<p>① 音響プラン・仕込み図作成しそれに従いセット・チェック・機器操作技術の修得。舞台機構調整技能検定実技試験合格すること。</p> <p>② 創作に於いて、スタッフとして役割を果たし、作品クオリティー向上の為、考えて行動出来る様になる事。</p>			
目標資格	舞台機構調整技能検定(3級:必須)または(2級:目標)			
前提知識	1年次に基本的知識を理解していること			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	9	1年次の実習複習		
	6	PA機器説明		
	30	PAセッティング・機器説明・チェック方法・調整方法		
	9	音響測定プラン図を理解する		
24	舞台機構調整技能検定対策(実技・要素)			
16	モニターシステム(フォールドバック)説明・実習			
6	イベント音響の仕込み図作成と運用			
14	創作活動			
計	114			
使用教材	教科書:舞台音響技術概論 解説プリント・演習プリント・実習プリント			
履修上の注意	機器類は重量も重く、危険も伴うので服装・運搬・取り扱いには十分注意すること。			
成績評価の方法	<p>・定期考査</p> <p>・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する</p> <p>・平常点</p> <p>【提出課題80%・平常点20%】</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース			
科 目 名	DAW実習	科 目 分 類	①独自 / 共通	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数
担 当 教 員	川村 武史	実 務 経 験	音響技術会社に勤務後、独立、サウンドエンジニアとしてPA、スタジオ業務に従事、その経験を生かしてDAW技術の実践的な指導を行う。	
目 的 / 概 要	<p>【目的】 創作実習を通してDAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レコーディング、トラック制作、アーティストの発する演奏や歌唱あるいはアレンジを学修する。 ・録音編集作業を終えたファイルの編集やミックスの修正方法を学修する。 ・必要に応じたオーサリングを学修する。 ・違う場面との編集による音的な違和感を処理する「クロス・フェード」を上手く掛ける方法などを学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。 			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・DAWを活用した制作過程で創作した作品(映像作品・音声作品)を完成させる。 ・完成した作品を視聴して、感想等の意見交換を行い、レポートにまとめる。 			
目 標 資 格	ProTools技術認定試験			
前 提 知 識	1年次の音響機器、音響システム、映像システム1が理解できている。			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
		21	レコーディング、トラック制作、アレンジ実習	
		12	ファイルの編集やミックス、修正実習	
		12	オーサリング実習	
		14	MA処理実習	
		14	マスタリング実習	
		3	視聴・意見交換	
計		76		
使 用 教 材	実習プリント			
履 修 上 の 意 注	TV関係の仕事の場合音響技術者といえども映像機器の知識は持っていないなければならない。			
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組み姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【提出課題80%・平常点20%】</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース			
科 目 名	MA実習	科 目 分 類	①独自 / 共通	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コ マ 数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数
担 当 教 員	川村 武史	実 務 経 験	音響技術会社に勤務後、独立、サウンドエンジニアとしてPA、スタジオ業務に従事、その経験を生かしてMA技術の実践的な指導を行う。	
目 的 / 概 要	<p>【目的】いろいろな音源に対する收音方法、メディアへの記録法からポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学修する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガンマイク、ワイヤレスマイクによる取材 ・フルデジタルシステムでの收音・編集 ・5.1サラウンドの收音と記録 ・ポストプロダクションとその設備、VTRの音声編集、テープロックシステムを学修する。 			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケーション撮影における、ガンマイクとワイヤレスマイクによる取材ができる。 ・フルデジタルシステムでの收音と編集ができる。 ・映像音響処理技術者認定試験合格できる。 ・ロケーション番組制作における、オンライン編集後のMA処理ができる。 			
目 標 資 格	映像音響処理技術者認定試験			
前 提 知 識	1年次の音響機器、音響システム、映像システム1が理解できている。			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	6	ガンマイクによる取材		
	6	ワイヤレスマイクによる取材		
	10	フルデジタルシステムでの收音・編集		
	6	5.1サラウンドの收音と記録		
	10	ロケーション番組制作のMA作業		
計	38			
使 用 教 材	実習プリント			
履 修 上 の 意 注	TV関係の仕事の場合音響技術者といえども映像機器の知識は持っていなければならない。			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組み姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【提出課題80%・平常点20%】</p>			

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース			
科 目 名	卒業研究	科 目 分 類	独自 / <u>共通</u>	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態 <u>講義</u> / 実習 / <u>演習</u>
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数 2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして研究テーマ全般の教育を行う。	
目的 / 概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学習したコンサートスタッフに関係する内容を自ら深く掘り下げ、情報収集、研究する。また、コンサートスタッフに関する研究テーマを決めて、自学することを学修する。 研究結果を発表し、プレゼンテーションスキルを身につける。 <p>【概要】</p> <p>研究テーマを決めて、調査研究を行い、それをレポートのまとめ、その結果を研究発表する。また、グループ活動を通して、個々の知識のレベルアップを図る。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマについて、収集した情報を整理できる。 研究テーマについて、考察ができ、レポートにまとめることができる。 研究内容をプレゼンテーションができる。 			
目標資格	特になし			
前提知識	特になし			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	10	レポート・論文作成法		
	20	研究テーマ決め、情報収集、研究		
	8	プレゼンテーション		
計	38			
使 用 教 材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版)			
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> まとめ用のノートを用意すること。 これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 			
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業への取り組み姿勢などを中心に総合的に評価する <p>【定期考査80%・課題評価10%・授業態度10%】</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名	コンサートスタッフコース				
科 目 名	卒業制作	科 目 分 類	①独自 / 共通		
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / ②実習 / 演習
コマ数 / 週	8	総授業コマ数	152	単 位 数	8
担 当 教 員	梅内久仁生	実 務 経 験	音楽財団法人に勤務し、音響・録音業務に従事、その実務を生かし音響によるコンテンツ制作の実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】</p> <p>1. 2年間の集大成として、それぞれ学んだ知識、技術を活かし「もの創り」を学修する。 ・制作過程で自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につける。 ・番組制作、イベント制作、公開に関わるコンプライアンスを学修する。</p> <p>2. 舞台機構調整技能士検定合格</p> <p>【概要】</p> <p>1. 作品制作(グループ制作) 具体的作品: テレビ番組・ラジオ番組・音響作品・音楽作品・ステージイベント作品など</p> <p>2. 舞台機構調整技能士3級合格者対象に2級合格のための対策授業を行う。</p>				
到達目標	<p>【作品の企画、構成内容を理解し、システムプランができる】</p> <p>【作品の企画内容を舞台、照明、音響で具体化することができる。】</p> <p>【レコーディングエンジニアの立場で他のスタッフと関わりを持ち、それぞれのポジションを理解し、制作をスムーズに進行できる】</p> <p>【制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること】</p> <p>【完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと】</p> <p>【舞台機構調整技能士2級合格】</p>				
目標資格	舞台機構調整技能検定(3級:必須)または(2級:目標)				
前提知識	2年間学んだ専門知識を理解できている 舞台機構調整技能士3級合格				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	95	作品制作(テレビ番組・ラジオ番組・音響作品・音楽作品・イベント、ステージ)			
	57	舞台機構調整技能士2級対策授業			
計	152				
使用教材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識ですのでしっかり習得すること。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組み姿勢などを中心に総合的に評価する <p>【定期考査80%・課題評価10%・授業態度10%】</p>				